

4年ぶり!!クルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」寄港

「秋の日本一周シーニッククルーズ」として、約140名の乗船客を乗せて、神戸を出発した「ぱしふいっくびいなす」が、宮古、釧路、金沢を経由し、令和4年10月17日(月)7時30分、鳥取港に入港しました。この寄港は、日本クルーズ客船株式会社の実施によるもので、クルーズ客船の寄港は平成30年10月以来、4年ぶりでした。

入港歓迎セレモニーの後、オプションツアー参加者はバスに乗り込み、鳥取砂丘や砂の美術館、智頭宿、白壁土蔵群などを観光した後、同日の17時30分に熊本・八代に向け、出港しました。

■ 寄港歓迎イベント

岸壁では、逢鷲太鼓連による勇壮な太鼓の演奏に加え、「トリピー」、「因幡ぴよん兎(と)」、「しろぴよん」がお出迎えをしました。

また、地元の賀露町伝承芸能保存会による元唄貝殻節の披露や、鳥取港振興会会長の深澤鳥取市長、平井鳥取県知事の挨拶等で、コロナ禍以降初のクルーズ客船の入港を歓迎しました。

出港時には、鳥取市観光協会連によるしゃんしゃん傘踊りが披露されたほか、見学を訪れた多くの皆様も加わって、温かいお見送りを行うことが出来ました。



4年ぶりに鳥取港に入港した「ぱしふいっくびいなす」



逢鷲太鼓連の太鼓演奏で入港をお出迎え



賀露町伝承芸能保存会が元唄貝殻節で入港を歓迎



深澤会長による歓迎挨拶



「ぱしふいっくびいなす」の砂のオブジェもお出迎え



鳥取市観光協会連がしゃんしゃん傘踊りで出港のお見送り